

みて!よんで!しゅ〜

ぎかいのひろば

“志賀町を誇りに”
二十歳の誓い



トピック

- ・突撃インタビュー「二十歳のつどい」
将来、志賀町に住みますか? … P2 ~ 3
- ・熊本県益城町を視察 …… P4 ~ 7
- ・令和6年度補正予算 …… P8
子育て支援 保育料・給食費を無償化へ
- ・一般質問 5氏が登壇 …… P12 ~ 17



の思い

5月4日、町文化ホールにて「二十歳のつどい」が開催されました。地震の影響で4か月遅れの開催となりましたが、140人が出席し、旧友との再会を喜びました。

二十歳という節目を迎えられた皆さんからは「家族や周りの人に感謝」「責任と自覚を持ちたい」との言葉が聞かれました。

今回は、「二十歳のつどい実行委員会」のみなさんに「二十歳の思い」をお聞きしました。

Q

今、町に必要なものはなんですか。10年後、20年後はどんな町であってほしいですか。

子ども達がのびのびと成長できる環境、子育てに障害がない環境。子ども達が楽しく過ごし、その両親もそれを通じて幸せを感じることができるといい町。

若い人がもっと住みやすくなるような、あたたかい町になればいいと思う。

● 活気を取り戻すこと。

子どもの頃はもっとたくさんイベントがあり楽しかったイメージなので、将来、その日だけでも帰ってきたくなるようなイベントがあったら楽しいと思う。

● 活気と日常。自分が幼い頃と変わらない、あたたかな町であってほしい。

● 人と人との支えあいが必要だと思えます。10年後、20年後も家族や友人と集まり、

笑顔あふれる志賀町であってほしいと思います。

● 少子高齢化や能登半島地震による人口流出によって町内の活気が衰退しています。この現状を打破するためには今までのやり方やしきたりにとらわれない町づくり、具体的にはトレン드의産業・政策と志賀町の地形的・文化的魅力を掛け合わせていくことが必要だと思います。

● 誰もが行きたいと思うような観光地づくりを目指し、人々が賑わえるような町になればいいと思います。

● 一日も早い復興が必要。志賀町だけを取ってみても道が陥没している所や、崩壊したまま道路に出ている家はまだまだ多くあります。気づかれてないだけで困っている人やモノはたくさんあるように感じます。高齢化が著しい志賀町だからこそ、人とのつながりを大事にして、自然や景観、祭りなどの伝統が守られ続けられるといいと思います。



大役を終えた実行委員の皆さん。笑顔での記念撮影

町や議会にひとつ。

● 昨今のSNS・動画配信サービスの普及により、議会や政治への国民の関心が高まっています。これをチャンスとして捉え、町や議会は自分達の活動を発信し、志賀町に見える形で還元してもらえればうれしいです。

● 元日の大地震からの復興にはまだまだ時間がかかると思いますが、元気な志賀町が1日も早く戻ってくることを願っています。

● 志賀と富来で同じ町なのに温度差があると感じている。もっと両地域が親しめるような町づくりを目指すべきだと思います。

● コロナや地震でなくなった祭りやイベントをして、県外に出ている人が帰るキッカケを作ってほしい。

● 自らも子どもの可能性は無限大に近いとひしひしと感じています。次の世代へつなぐために、大人として最大限の努力を期待しています。

● 住みよい志賀町になるように、町民一人ひとりの意見を聞いてください。

● 震災後でまだまだイレギュラーなことが多い中、私たちのために成人式を開催してくださって本当にありがとうございます。私たちが志賀町の未来のために少しでも力になれるよう頑張ります！

● 若者が住みやすい町づくり、定住したいと思える町になることを期待します。

突撃インタビュー

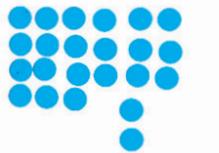
二十歳



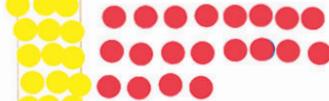
二十歳の皆さんに、お聞きします。

将来、“志賀町”に住みますか？

住みたい



住みたくない



- 住みたい……………23人
- 住みたくない……………20人
- 考え中、決めていない…38人

～広報委員会から～

今回、「二十歳のつどい」会場で、広報委員会としては初めての「シールアンケート」を行い、たくさんの方から回答とお話を伺うことができました。

「住みたい」と回答された方からは「志賀町が好きだから」「生まれ育った町に帰りたい」という声や、「住みたくない」と回答された方からは、「交通が不便」「もっと遊ぶ場所がほしい」との声がありました。また、「考え中・決めていない」と回答された方からは、「働く場所があれば帰ってきたい」という回答がありました。

アンケートに回答してくださった皆さん、ありがとうございました。

二十歳の皆さんの今後の活躍をお祈りします。

熊本地震 益城町から学ぶ

地震災害からの復興を調査

志賀町議会では、熊本地震の復興支援の取組、現在の課題などを調査し、本町の実情と比較しながら研究を深めることで今後の政策提言に活かすことを目的とし、5月15日、熊本県益城町への視察を行いました。

参加議員（10名）

小林克嘉、梢 正美、表谷茂浩、中谷松助
福田晃悦、寺井 強、堂下健一、富澤軒康
櫻井俊一、林 一夫

視察内容

- ・復興計画、情報発信、財政運営について
- ・商工観光に関する支援及び復旧について
- ・学校教育施設の復旧について
- ・自治公民館等の支援について
- ・復興まちづくり計画について
- ・現地視察

（仮設住宅・災害公営住宅・仮設店舗）



【熊本県益城町】

益城町は熊本県の中央北寄りに位置し、熊本空港や九州自動車道の益城熊本インターチェンジなどがある交通の拠点で、熊本市のベッドタウンとして住宅街の役割も果たしている人口約3万4000人の町です。

平成28年熊本地震では、4月14日、16日の2度にわたって震度7の地震が起こり、死者45名（関連死含む）、全壊家屋3026棟という壊滅的な被害を受けました。

現在は復興事業も進み、失ったものを元に戻すだけでなく、町全体が一丸となり新しく創りながら復興していく、それが「創造的復興」だとして、10年先、20年先を見据え、町民や訪れた人の心に残る、益城町ならではのまちづくりを目指しています。

益城町が目指す復興将来像

「住み続けたいまち、次世代に継承したいまち」

【視察での主な質疑】

復興計画策定

問 復興計画策定のため、どのように町民から意見を聴取したのか。

答 復旧・復興は町民全ての声を聞くという方針で区を単位に説明会を行い、人数が少ない区は複数で行った。開催の案内は回覧を使い周知を図った。

議会・議員の役割

問 議会として行うべきこと、行ったことは。

答 発災当時は地域を見て回った。
益城町は昭和29年に5町村が町村合併したが、旧町村単位の議員がおり、地域の把握を行い、議会ですべて町に報告した。議会としての一番の役割は町民の声を聞く事、地域の皆さんに寄り添う事であり、そのことで町民の信頼を得ることも大事である。

仮設住宅設置・災害公営住宅

問 仮設住宅設置場所は農地が多いが、その考えは。

答 県の農地部局と相談し、公共事業、大規模災害といった特殊なものとして農地の一時転用で進めた。

災害公営住宅は、恒久利用のため、用地を選定し、町有地で建設している。

震災対応を進めるなかで、執行部とのつながりが強くなった。当町では町長をトップに職員、議会が一致団結して復旧・復興に取り組んだと考える。

P5〜7は参加議員の視察報告書（要約版）を掲載しました。

復興に向かう 未来を創るには

小林 克嘉



能登半島地震を体験した私としては益城町の光景は眩しく活気溢れる町に見え、私達が復興に向かう、未来を創る大きなヒントがあったと思えました。

自治体と町民が幾度となく会話をして内容を国へと繋げ、復興基金として財源を確保したことや、商業・住宅・コミュニティ施設の在り方や仕組みを再確認すると共に、今議会が何を訴えて発信していかなければならぬのかも視察を通して見えた気がします。

今町は他の経験とマニュアルを活かして、それ以下の事をしてはならない、その過程の中で町の条件に合った形へとアップデートしていかねばならないのです。それが未来の志質

町と、町民の安心を作ると同時に地震被害でさえも観光資源にして交流人口の拡大を図り、被災前よりも豊かな街にしていかなければならないと強く感じました。

復興の主体は『住民』

梢 正美



復興計画策定にあたって課題や現状を行政視点だけでなく住民視点を踏まえて検証がなされていること、21回の説明会開催及び議員が地域に入り込んで活動を進める意義を感じました。

復興計画に沿って取り組んできた事業手段の説明や、具現化されたものを見たり、町の人の声や体験を聞いたこと、多岐にわたりました。

みんなの声を大切にして作った計画だからこそ、価値ある資源や人の思い、そ

こが起点になった計画書が策定できるものと考えます。復興まちづくりにおいて、行政に今後必ず求められる政策成果、政策結果、財源は不可欠であると考えます。復興の主体は『住民』である考えは益城町さんに共感しました。

補助金の有効活用を

表谷 茂浩



益城町執行部と議会が協力し、被災した町民のために国や県の財源はもろろん補助金の施策を有効活用していると思いました。

益城町は震災から8年経過していますが、町にはあまり震災の跡が残っていないくらいに復興していることはすごいことだと感じました。

住民の声を 復興計画に

福田 晃悦



仮設住宅・災害公営住宅を建設する際に、公有地が不足していた対策では、臨時的に農地などの転用を行い農地を建設用地にしたり、まとまった民有地があったため基準となる単価で買い取りしたりするなどして、建設用地とされていきました。

復興計画策定においては、町内を地区ごとに21回、住民からの意見集約を町長自らの発案で行い、のべ1600名の参加の下、住民ヒアリングを行い、住民からの声を大いに復興計画に盛り込まれていました。

「使える(である)予算がどれだけあるか」を前提に、住民の声や要望を細かく聞き取り、それをベースに、必要な予算を復興基金や特例の過疎債を利用し、復興

事業にあたったことなど、参考になった点が多くありました。

“四位一体”の 対話と理解

中谷 松助



益城町では、執行部、議会、職員、町民とまさに四位一体とも言うべき対話と理解を一番重視していたと思います。やはり、「町民が主人公を意識していました。また、国・県には財源をしっかりと求められており、あらゆる補助施策を研究していると思いました。



木造平屋建ての災害公営住宅

積極的な投資、政策が必要

寺井 強



益城町の決算状況を見ると、震災後の復旧・復興に向けた積極的な投資がみられました。国・県の災害関連補助金や有利な地方債をフルに活用しており、公債費は上昇していますが、地方交付税の増加等によりある程度の収支バランスは確保していると思われます。

こうした政策により、人口は大幅に減少することなく、町税額も一定額を確保しており、全国各地で人口減少、少子高齢化が進むなかで非常に参考になる事例と思われる、志賀町の復旧・復興のため、早急な災害関連事業を推進することが必要と感じました。

木造仮設住宅建設では、町民に寄り添った形での積極的な行動が見え、また今

でも残っている仮設商店街もうまく利用されており、地震の形跡があまり見えないくらい復興していると感じました。

記録を残すことの意義

堂下 健一



座学研修では、震災の経験や復旧・復興についての意見の取りまとめの過程やその後の検証過程など記録をきちんと残していることの重要性について学びました。その経験は町のみならず、全国の自治体でも共有できるものです。自然災害は避けられませんが、その備えができていないか、被災後の取組が大きく変わってくるのが予測できます。不十分な取組みのしわ寄せは町民が負う事になることは歴然としています。



益城町ホームページより

益城町 益城町復興計画 策定に向けた住民意見交換会のお知らせ

復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を実施します

益城町では、7月26日（土）に益城町復興計画基本方針策定に向けた、この基本方針策定に向けて「住民意見交換会」を開催しました。参加者からは、復興計画策定に向けた様々なご意見が寄せられました。

この意見交換会の開催にあたって、まず、住民の皆さんに「復興計画」について、復興計画策定の意義や目的、復興計画策定のプロセス、復興計画策定のスケジュール、復興計画策定の進捗状況、復興計画策定の成果などについて、事前に説明を行いました。また、復興計画策定に向けた様々なご意見を伺いました。

（今後の予定）

7月27日（日） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

7月28日（月） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

7月29日（火） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

7月30日（水） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

7月31日（木） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

8月1日（金） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

8月2日（土） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

8月3日（日） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

8月4日（月） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

8月5日（火） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

8月6日（水） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

8月7日（木） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

8月8日（金） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

8月9日（土） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

8月10日（日） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

8月11日（月） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

8月12日（火） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

8月13日（水） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

8月14日（木） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

8月15日（金） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

8月16日（土） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

8月17日（日） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

8月18日（月） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

8月19日（火） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

8月20日（水） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

8月21日（木） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

8月22日（金） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

8月23日（土） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

8月24日（日） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

8月25日（月） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

8月26日（火） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

8月27日（水） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

8月28日（木） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

8月29日（金） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

8月30日（土） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

8月31日（日） 復興計画策定に向けた「住民意見交換会」を開催します。

お問い合わせ先：復興計画策定委員会事務局（電話：096-286-3210）

町民の意見を取り入れて作られた復興計画

現地視察で、いまだに仮設市場が活用されているという現実が地震からの復興は長時間を要するということをまざまざとみせつけられました。

短期、中期、長期のきめ細かい計画が住民参加の元で策定されるべきと感じさせられました。

町民と手を携えた復興を

富澤 軒康



志賀町も益城町も復旧復興再建に関し辿り着くところは同じだが、その登り口、道程は全く違う。長くて険しく容易ではない道を単独で登りつめるか、町民被災者と手を携えて共同で一歩一歩進むのか、この選択を決して間違つてはいけない。

今の志賀町の町民に対する進め方はこれでよいのだろうか。町民不在でなろうか。

仮設住宅建設に関しては、本町では町有地ありきで事が進められてきたが、益城町においてはほぼ農地、町が買い取り自身身の限りなく近い場所に建設がなされてきた。これが本来の姿、考え方であり、地域コミュニティの存続がそのまま継続されていた。仮設商店街の説明も今後の地域振興業

（生業）として非常に参考になった。

今後復興計画を策定するにあたり、町民への単なるアンケート調査で作成するのではなく、1人でも多くの町民の生の思い・考え・意見を聞き取り、町民が参加できる志賀町復興計画を作成するべきである。

町民に対して、今、何を考え、何を求めているのか聞くべきであり、被災状況の説明、今後の町の方針・計画など早急に住民説明会を開催し、被災者の生活状況の把握に努め、日常生活支援策・生業再建に向けた支援の更なる拡充を求める。



熊本地震の記憶を継承する場
復興まちづくりセンター「にじいろ」
※益城町ホームページより

防災道路としての 道路計画を

櫻井 俊一



能登半島地震は復興については、半島という立地条件からたいへん厳しいものとなっております。

ライフラインの状況が奥能登へいくほど復旧が遅れていくことや、高齢化が進み人口が減少した中、地域から人が離れていくことから、志賀町はもちろん、能登全体の復興計画を早急に進めていく必要があります。

益城町では防災道路として広い車線の道路計画を進めており、同様な防災道路の必要性を実感しました。

また、益城町では、コンパクトな町で行政や商業施設、住宅等が集積するため、町の都市拠点として復興させるために土地区画整理事業を実施されてきました。他には、町民主体となっ

てまちづくり協議会を結成することで町執行部に提案ができ、町民同士で共有されており、本町にも必要な取組であると感じました。

あるべき姿を 求めて行く！

林 一夫



この度の視察研修にあたり、私が主に関心を持っていたのは「復旧復興に関する財政面での措置と中長期的な町財政の運営」でありました。2016年の発災から約8か月後に策定された「復興計画」にも理念や都市構造に基づく土地利用、分野ごとの取組方針も盛り込まれており、それに基づく実践が今日まで続けられているものと思います。

その結果、財政面でも大きな負担が生じて、将来にわたる地域の重荷になることと思われるますが、それに

も関わらず、敢えて「あるべき姿を求めて行く」と感じられる姿勢は大きな評価であると感じています。

能登半島地震

復旧・復興に向けた提言を決議

今回の視察で学び得たことをもとに、町の復旧・復興が町民主体による、町民のための復興とすべく提言を全会一致で決議、町長に提出しました。

今後も、議会は町民のための復興が成されるよう、被災者の方の声を漏れなく拾い上げ、執行部に提言を行うとともに、互いに協力しながら、職責を果たしていきます。



提言書の全文は
こちらから

1 町民に寄り添った町民のための復興

- ・町民目線に立ち、直接、繰り返して町民の意見を聞き、その意見を反映した町民のための復旧・復興に取り組むこと。
- ・支援が全地域、全町民に隔たりなく行き届くよう、地域の被災状況に応じた復旧・復興に取り組むこと。
- ・震災前の生活が取り戻せるよう、町民の声を最優先し、従来の地域コミュニティが形成できる仮設住宅や公営住宅の建設に取り組むこと。

2 町民と協働による復興

- ・復旧・復興には従来からの地域やコミュニティの維持が必要であり、自助、共助、近助の仕組みとして地域における住民組織の設置、支援に取り組むこと。

3 人的資源の活用による復興

- ・地域の組織や各団体などと連携を図り、全町一体となった共助に取り組むこと。

4 将来を見据えた積極的な復興

- ・今後も住み続けられる町の将来像を第一に考え、積極的な復旧・復興事業に取り組むこと。

5 災害に備える復興

- ・今回の被災経験を十分に踏まえ、避難道路等の多重化や強靱化、住居や店舗等の耐震化支援に取り組むこと。

6 復興にかかる財源確保

- ・国、県と連携を密にし、復興の財源を確保するとともに、本町の課題に応じた復興策を推進するため、町独自の復興基金の創設に取り組むこと。



議長から町長へ、議場で提言書が手渡されました。

※能登半島地震からの復旧・復興に向けた提言(抜粋)

子育て
支援

子育てを
町政の真ん中に

令和6年9月から

保育料・給食費を
無償化



子育て世代の経済的な負担を軽減し、若い世帯の将来設計にとって魅力あるまちづくりを推進し、子どもの成長を町全体で支えるためとして、学校給食費については、すべての児童生徒について無償とします。

保育料についても、子どもの年齢や人数、保護者の所得にかかわらず、保育施設に在園する全ての子どもの保育料を無償とします。

6月定例会は、6月4日から同月18日までの15日間の会期で開かれ、報告が3件、令和5・6年度の補正予算及び条例の一部を改正する専決処分承認が15件、令和6年度の補正予算をはじめ議案が10件、請願1件、同意1件、議会議案3件を審議しました。（※議決結果はP11参照）



↑ 提案理由説明の映像はコチラから

被災者
支援

被災者に寄り添って



能登半島地震における避難者等の心身の健康の維持や孤立化などを防止する見守り活動を行うとともに、日常生活の相談や支援を一体的に提供する「志賀町被災者見守り・相談支援事業」を実施します。

7月1日から「志賀町地域支え合いセンター」を立ち上げ、被災者が自立した生活再建が図られるよう、支援していきます。

地域支え合いセンター設置

令和6年7月から

令和5年度・6年度専決補正を承認

令和5年度

< 一般会計 主な補正理由 >

| 会計名 | | 補正額 | 予算額 |
|------------|---------|------------|------------|
| 一般会計(第13号) | | △17億3787万円 | 156億4632万円 |
| 特別・企業会計 | 国民健康保険 | 1429万円 | 23億7829万円 |
| | 後期高齢者医療 | 91万円 | 3億9320万円 |
| | 介護保険 | △5799万円 | 29億5461万円 |
| | 診療所事業 | 482万円 | 2億295万円 |

(歳入)

- ・町税や地方贈与税、各種交付金、特別交付税の増額

(歳出)

- ・各種事業の実績見込に伴う事業費の減額

令和6年度

| 会計名 | | 補正額 | 予算額 |
|-----------|---------|----------|------------|
| 一般会計(第1号) | | 9億1358万円 | 380億1358万円 |
| 一般会計(第2号) | | 2528万円 | 380億3886万円 |
| 企業会計 | 水道(1号) | 収益的支出 | 1100万円 |
| | | 資本的収入 | 950万円 |
| | | 資本的支出 | 1045万円 |
| | 下水道(1号) | 資本的収入 | 1億690万円 |
| | | 資本的支出 | 1億941万円 |
| | | | 22億3138万円 |

(歳入)

- ・事業実施に伴う国庫支出金・県支出金、地方債、基金繰入金の増額

(歳出)

- ・事業者等災害復興支援金、なりわい再建支援補助金の事業費の増額
- ・仮設住宅駐車場整備費の増額

令和6年度補正を可決

| 会計名 | | 補正額 | 予算額 | |
|-----------|---------|-----------|------------|-----------|
| 一般会計(第3号) | | 18億3845万円 | 398億7730万円 | |
| 特別・企業会計 | 国民健康保険 | 1230万円 | 21億3954万円 | |
| | 後期高齢者医療 | 1350万円 | 4億4941万円 | |
| | 介護保険 | 2588万円 | 30億3213万円 | |
| | 水道(2号) | 資本的支出 | 3905万円 | 6億8986万円 |
| | | 資本的収入 | 3億890万円 | 21億5568万円 |
| | 下水道(2号) | 資本的支出 | 3億1200万円 | 25億4338万円 |

(歳入)

- ・保育料及び学校給食費無償化の実施に伴う負担金の減額
- ・事業実施に伴う県支出金、基金繰入金、町債の増額

(歳出)

- ・仮設店舗等の整備、公共施設の災害復旧に要する経費の増額



承認第21号

雑損控除

質疑 能登半島地震での災害損失対象になるものをお知らせしているか。

答弁 窓口にパンフレットを配置するほか、今後広く広報に努める。

定額減税

質疑 減収の減額見込は。

答弁 町民税で7000万ほどである。

議案第50号

地域包括

支援センター

質疑 人材確保への対策は。

答弁 どの業種も人口減による人材不足が深刻な状況であるが、人材の発掘と共に、現職員の資格取得等、計画的に育成するなど、国の指導に準じた対応が必要と考える。

議案第51号

空き家対策

質疑 空き家の管理不全とはどのような状態か。

答弁 空き家とは1年以上誰も住んでいない、電気・ガス・水道が使用されていないなどの状態をいう。

管理不全とは家の壁・窓が壊れているなどのほか、雑草・枯草が管理されていないなど、周辺も管理されていない状態である。

質疑 空き家に対する行政の対応は。

答弁 所有者を調査し、空き家の状態を写真を添えて通知し指導するほか、緊急時の連絡先の確認を行っている。今回の改正は指導だけではなく、勧告の手続きを取れることができるものである。



空き家は所有者の調査にも苦慮する

議案に対する 討論

討論とは、議案や請願に対し、議員が自己の賛否の意見を表明し、その理由を述べて他の議員に賛同を求めるものです。

賛成

反対



中谷 松助 議員



【議案第49・50号】

いずれも地域包括支援センター職員の配置基準について柔軟な配置を可能とすることに基いた条例改正であるが、労働条件、処遇、待遇が決して良いとは言えず、本来の魅力と安心のある介護環境になっていないという事である。

介護基本報酬の底上げや国が決めているケアワーカーの給与アップ等の処遇改善を求めるべきであり、小手先の配置基準緩和では、介護サービスの質の低下や、職員の多忙化につながってゆきかねないことから、**反対**。

【議案第52号】

紙の保険証とマイナ保険証のどちらでも選択できるように、紙の保険証を今のまま残してもらいたいとの考えから、**反対**。

反対

中谷 松助 議員



【請願第1号】

学費の値上げではなく、逆に値下げして、ゆくゆくは高等教育は無償にしていく。財源は不安をあおる軍事費のアップではなく、教育予算のアップに回し、安心と希望を拓いてほしいとの考えから、**賛成**。



※議長は採決に加わりません。

6月定例会

| 議案番号 | 議案名と主な内容 (議案名は一部省略してあります) | 議決結果 |
|-----------|--|---------------------|
| 報告 1～3 | 専決処分の報告について(損害賠償に係る和解及び損害賠償の額の決定) | — |
| 承認 16 | 専決処分の承認について(令和5年度一般会計補正予算(第13号)) … 9ページ参照 | 承認 賛11 反0 |
| 17～20 | 専決処分の承認について(令和5年度国民健康保険特別会計補正予算(第3号)～令和5年度診療所事業特別会計補正予算(第2号)) … 9ページ参照 | 承認 賛11 反0 |
| 21～26 | 専決処分の承認について(税条例の一部を改正する条例～行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例) | 承認 賛11 反0 |
| 27 | 専決処分の承認について(令和6年度一般会計補正予算(第1号)) … 9ページ参照 | 承認 賛11 反0 |
| 28 | 専決処分の承認について(令和6年度一般会計補正予算(第2号)) … 9ページ参照 | 承認 賛11 反0 |
| 29・30 | 専決処分の承認について(令和6年度水道事業会計補正予算(第1号)、令和6年度下水道事業会計補正予算(第1号)) … 9ページ参照 | 承認 賛11 反0 |
| 議案 43 | 令和6年度一般会計補正予算(第3号) … 9ページ参照 | 可決 賛11 反0 |
| 44～48 | 令和6年度国民健康保険特別会計補正予算(第1号)～令和6年度下水道事業会計補正予算(第2号) … 9ページ参照 | 可決 賛11 反0 |
| 49 | 指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例 … 所要の改正。 | 可決 賛10 反1 |
| 50 | 包括的支援事業の実施に関する基準を定める条例の一部を改正する条例 … 地域包括支援センター運営協議会が必要と認める場合には、常勤換算方法により配置基準を満たすことが認められるように緩和するため、所要の改正。 | 可決 賛10 反1 |
| 51 | 空き家等の適正な管理に関する条例の一部を改正する条例 … 空家等対策を強化するため、所要の改正。 | 可決 賛11 反0 |
| 52 | 石川県後期高齢者医療広域連合規約の一部変更 … 広域連合規約を変更するにあたり、構成市町の議会の議決が必要なため。 | 可決 賛9 反2 |
| 請願 1 | 学費値上げに反対し、高等教育無償化を求める意見書採択に関する請願 | 不採択 賛2 反9 |
| 同意 1 | 農業委員会委員の任命 … 農業委員会委員の任命で、議会の同意を求める。(徳山和久氏、篠田幹男氏、田中勉氏、加茂野真奈美氏、三山克志氏、稲岡利男氏、畠下幹男氏、中根智博氏、石川外司氏、桶正人氏、畑中正夫氏、細川一元氏、吉野成明氏) | 同意 賛11 反0 |
| 発委 1・2 | 議会会議規則の一部を改正する規則について、議会委員会条例の一部を改正する条例 | 可決 賛11 反0 |
| 発議 3 | 「能登半島地震からの復旧・復興に向けた提言」に関する決議 … 7ページ参照 | 可決 賛11 反0 |

5氏が登壇 町政を問う！

【一般質問とは】

議員が町政一般について、報告や説明を求め、質問することをいいます。

1人あたりの持ち時間は答弁を含めて40分です。



南 正紀 議員

(13 ページ)

- 1 地域の実情に即した復旧について
- 2 選挙公約について
- 3 第1回定例会の答弁について

小林 克嘉 議員

(14 ページ)

- 1 避難所生活や仮設住宅の人たちへの今後の安心について
- 2 町内にある共有施設や建物について
- 3 復興に向けた志賀町ビジョンについて

堂下 健一 議員

(15 ページ)

- 1 災害対策の計画について
- 2 農林水産業の被害総額と今後の復旧計画の見通しについて
- 3 原発避難計画について
- 4 震災被害の記録について
- 5 コウノトリへの取組について
- 6 風力発電について
- 7 文化財の調査・救出・修復について

中谷 松助 議員

(16 ページ)

- 1 志賀原発廃炉を求めよ
- 2 併設富来小中学校の今後の見通しを聞く
- 3 富来放課後児童クラブの今後の見通しを聞く
- 4 災害ゴミ受け入れ期間の見通しを聞く
- 5 個別特殊被災への復旧支援の考えは
- 6 個人管理合併浄化槽の早期復旧支援を
- 7 県道49号、深谷中浜線の拡幅、強靱化を
- 8 復興に向けた多くの住民との対話の場を

梢 正美 議員

(17 ページ)

- 1 復興計画策定等にかかる女性の意見や考えを取り入れることを求める
- 2 震災による過疎化に対して「地域おこし協力隊」等の制度導入を求める

議員の
ひとこと
です。
一般質問を終えての議員の感想



町民へ安心安全となる発信を

適切な避難指示を出す 町長

南

第1回定例会で「原子力災害における避難計画等について」の一般質問に対し、「本町だけで避難計画を作っても実効性がない」との答弁があったが、町民に向けて安心安全となるメッセージを発信すべきではなかったか。

町長

今回のような大規模な災害が発生した場合、原子力発電所で放射能漏れに繋がる重大な事故が発生してないか、正確な状況把握、情報収集を行うことが最も肝要かと考えている。

事故が発生した場合、的確な状況把握に努め、国や県の対策本部と協議の上、避難経路、避難方法を判断し、適切な避難指示を出したいと考えている。

避難計画は、施設の耐震対策の強化も含め、実際の避難者数に応じたゼロベースでの見直しが必要であると考えている。

原子力防災に責任を持っている国とも協議をしながら、町民に不安感を与えることのないよう、安心・安全に繋がる最善の方法を探っていきたい。

議員の

ひとこと

質問者、答弁者共に下を向き原稿を読みあう一般質問の在り方を変えようと、読み原稿なしで登壇しました。

相手の目を見て質問!



南 正紀 議員

動画は
こちらから→



地域の実情に即した復興計画を策定せよ

県復興基金の用途に柔軟な対応を要望する 町長

南

被害が著しく、区費を集めることさえも困難な区においては、地元の負担をなぐして集会所の修繕等ができるなど個別の復興計画を策定できないか。

町民の声をたくさん汲み取り、個別の事情に応じた復興計画を作っていただきたいが考えを聞く。

町長

地域コミュニティの再建は県に対し復興基金の用途に柔軟な対応を要望していきたい。

地区ごとに補助率が変わるといことは不公平感が生じることもあるため、慎重に協議したい。

復興計画策定後、町民の意見を伺う場として、説明会を開く予定である。

説明会での対話でいただいた意見を計画の中に盛り込み、修正していきたい。

その他の質問

南

町長自身の公約に対する評価と、今後の取組みを聞く。

町長

震災対応に注力してきたこともあり、評価できないことが正直な思い。

町民に向けた「町政運営に対する評価アンケート」を実施し、審判を仰ぐ。

再質問

南

アンケートの内容は決まっているのか。

評価に対して、異議申し立てはしないのか。

町長

アンケート項目は協議中である。

町民から頂いた意見となるので、異議申し立てはしない。

仮設住宅入居者への今後のプランは

状況に応じた 再建プランの提示に努める 町長



小林 克嘉 議員

動画は
コチラから→



小林

①避難所、仮設住宅等に住んでいる方から、建設型仮設住宅を希望したい、転居したいという声が多くあるが、2年後のプランをどのように考えているか。
②建設型住宅が町営住宅として新しい定住区画となり、町への定住や集約化されるのが求められているが、富来地域と志賀地域でどのような場所を検討していくのかを聞く。

町長

①入居者へ個別に希望調査を行い、災害公営住宅への入居や自分の土地での再建支援策など、個々の状況に応じたプランを提示し支援していきたい。

②富来地域の4か所の団地は、まちづくり型の木造長屋形式であり、仮設期間終了後は恒久的な住まいとして町営住宅に活用することができるもので、入居者の意向を確認し、県と相談しながら転用を検討していきたい。

志賀地域で仮設住宅建設予定である柴木運動公園などは公的施設の区域であり、恒久的住宅としての整備には向かないため、解体撤去を予定している。

入居者には、今後の居住環境についての希望を確認し、災害公営住宅などの建設が必要であれば、検討していく。

地域の共有施設 修繕に対する補助を聞く

県に対して要望している 町長

小林

区や地域で管理している共有施設も被害が大きく、修繕に係る出費は負担が重い。

集会所施設の修繕への補助について聞く。

神社は、地域住民において心のよりどころでもあり、熊本地震では復興基金なども導入されたと聞くが、今後の対応を聞く。

町長

現在、県が復興基金の準備を進める中で、集会所修繕に係る地元負担への継ぎ足し補助や、神社等の公費補助に馴染まない施設の修繕等に対する支援策を検討している。

町では、県に対し復興基金の柔軟な対応を要望しており、地域の祭礼や行事を継続するために必要な地区施設の再建事業と同様な運用に期待している。

その他の質問

小林

復興に向けた志賀町ビジョンを聞く。

町長

本町の復興に向け、『かえる、志賀町』として「人が帰る」「元に戻る」「町を変える」ことを早期に実現するための施策を掲げていく。

議員の

ひとつひとつ

私にとっては初めての一般質問でした。

町民の声に向き合い、町政へ届けることができたと思います。

実現に向けて行動と発信を軸に頑張ります。



堂下 健一 議員

動画は
コチラから→



半年ぶりの議会質問
で、質問数が多すぎた
ようです。
早口となり、反省し
ています。

議員の
ひとこと

被災した文化財

救出し、後世に伝えよ

復旧・復興に向け作業している

教育長

堂下

貴重な文化財が被災しているが、これらの文化財を救出し、後世に残し伝えていく責務がある。

公費解体が本格化するこれからが資料救出の正念場であり、人・予算・場所の早期確保が求められるが、町の考えを聞く。

教育長

現在、国の文化財ドクター派遣事業を活用し、町文化財保護審議委員などの協力を得て復旧・復興に向けた作業を行っている。

個人所有物については、広報しかやメール等で古い文書や美術品などと思われるものを安易に捨てないよう周知を行っており、保管場所は、旧学校施設を活用していきたい。

能登町への避難計画は成り立つのか

幅広く柔軟に避難できる体制づくりが必要

町長

堂下

今回の地震では道路が何か所も寸断され、能登町も甚大な被害を受けたが、今後、能登町への原発避難計画は成り立つのかを聞く。
原子力防災施設は、建物本体は無事でも付属の施設や合併浄化槽の被害、水道が不通な施設が何か所もあるが、修復の見込みを聞く。

町長

今回の地震によって、現行の避難計画の見直しが迫られている。
さまざまなケースを想定し、幅広く柔軟に避難できる体制づくりも必要ではないかと考えており、国・県に対し、必要な要望をしていきたい。
原子力防災施設は全面復旧の見通しが立たないのが現状であり、復旧にあたっては建物の耐震対策・インフラの強化・施設数や立地等についても、国や県とも協議しながら、検討していきたい。

その他の質問

堂下 災害対策計画立案を聞く。

町長 地域と町が連携し、災害時の初動対応を計画、訓練を実施する。

堂下 農林水産業の被害を聞く。

農林水産課長 被害総額は121億2800万円ですさらに増える見込。

堂下 震災被害の記録は残すべき。

デジタル情報課長 震災直後から被災状況の記録写真とデータの保存を行っている。今後、「未来に向けた震災デジタルアーカイブ・志賀町から未来へつなぐ記憶と教訓」として町民からも公募する。

堂下 コウノトリへの取組を聞く。

生涯学習課長 巣作りをする環境を守りながらトキ放鳥へ繋げる。

堂下 風力発電計画を聞く。

町長 災害防止などについて県に対して意見を述べたい。

志賀原発廃炉を求めよ

厳格な審査が行われると認識している

町長



中谷 松助 議員

動画は
コチラから→



中谷

今回の能登半島地震で、志賀原発で重大事故が起これば避難などできない事が誰の目にも明らかになった。

志賀原発は即刻廃炉にして、再工ネ開発、気候危機にも応えてゆく、そういう未来を国にも北陸電力にも求めて頂きたい。

町長

志賀原子力発電所1・2号機ともに現在停止中であるが、2号機については新規制基準への適合性に係る審査が行われており、厳格な審査が行われると認識している。

特定のエネルギー源に依存することなく、バランスの取れたエネルギー構成による電力供給が必要であると認識しており、今後とも原子力規制委員会及び国の動向を注視していきたい。

併設富来小中学校の 今後の見通しを聞く

小学校は 中学校を仮校舎として使用

教育長

中谷

地震で富来小学校の教室は使えない状態となり、富来中学校に間借りをした格好となっている。

中学校も体育館や柔道場は床の変形が見られ、ランチルームもほぼ半分が損傷しているなど、およそ学校施設とは言えない状態である施設を今後どうされるのか、見通しを聞く。

教育長

学習活動スペースの確保を最優先に考え、今定例会において、教育環境の改善に向けた修繕工事の補正予算額を計上している。

施設被害については、公立学校施設の災害復旧事業に沿って国に報告しているが、その結果を受けて、復旧方法や将来的な在り方を協議し、学校の配置を検討したい。

その他の質問

中谷

富来放課後児童クラブの今後の見通しを聞く。

子育て支援課長

国に対して仮設施設の設置、とぎ保育園を改修して一部を利用できる両案を要望し、調整を図っている。

中谷

一般の災害ゴミ受け入れ期間の見通しを聞く。

環境安全課長

富来野球場駐車場は当分の間、継続するが、公費解体を進めていくため、旧志賀中学校グラウンドでの受け入れはこれ以上の延長はしない。

中谷

個別特殊被災への復旧支援の考えは。

震災復旧復興生室長

県の復興基金の内容を踏まえ検討する。

中谷

個人管理合併浄化槽の早期復旧支援を。

まち整備課長

制度の周知や支援体制の充実に努める。

中谷

県道49号、深谷中浜線の拡幅、強靱化を。

まち整備課長

国・県に要望する。

中谷

復興に向けた多くの住民と対話の場を。

町長

計画策定後、説明会を開催する。

議員

ひとつひとつ

もひとつと皆さんの声を聞きに行かねばと思います。



梢 正美 議員

動画は
こちらから→



復興計画策定等に

女性の意見や考えを取り入れよ

意見が出しやすい仕組みを検討

町長

梢

復興計画策定等、女性の意見や考えを取り入れることを求める。

- ① 復興計画の策定や実施に関わる場では、女性を男性と同数とせよ。
- ② 女性が意見を言いやすいよう、女性だけが議論できる場を設けよ。
- ③ 経済的な支援以外で町が考える子育て当事者支援を聞く。

町長

① 他の団体代表とのつり合いや、利害関係など、単に数合

わせをするということではないと考える。

女性が意見を出しやすい、サイトやSNSなどにより、仕事や家事、育児などで忙しい合間でも参加できる仕組みなどについても検討していきたい。

- ② 女性の地位向上や社会参加に係る活動を通して、町づくりにへの参加を促していきたい。
- ③ 子育て世帯のニーズを的確に把握し、安心して出産・子育てできるように、更なる子育て環境の充実を図る。

議員の

ひとこと

人口戦略会議で、20〜39歳の女性人口が50%以上減少、消滅可能性自治体とされる本町。人口減少対策、復興まちづくりに女性の声を取り入れる環境や仕組みづくりを!

「地域おこし協力隊」の導入を求める

協力隊を加えることは考えていない 町長

志賀町災害VCは「志賀町地域支え合いセンター」に移りました



【地域支え合いセンター】

志賀町社会福祉協議会が運営する被災によって生じた困りごとや心配ごとなどの相談に応じる組織です。

梢

災害により深刻化する過疎化に対して、ソフト面からの事前復興の取り組みに「地域おこし協力隊」等の制度を導入の上、被災者の見守りやケア、地域おこし活動などの復興に伴う地域協力活動を通じて、コミュニティ再構築を図ることを求める。

町長

見守りケアや復興の協力活動は、町社会福祉協議会が行う「地域支え合いセンター」や医師・看護師等の専門職の派遣、NPOの協力などを中心とした対応を考えており、町の責任の下で行う業務に協力隊を加えることは考えていない。

聞かせてください！

あなたの

声

議案や町の事業について、町民の
皆さんからご意見を伺います。

能登半島地震関連

町の事業者支援について

【志賀町なりわい再建支援補助金】

町独自の支援として、石川県なりわい再建支援補助金の
上乘せをし、事業者の自己負担の軽減・事業継続を支援。

【志賀町事業者等災害復興支援金】

町内の企業および個人事業主を対象に、従業者規模に応
じて支援金を交付し、事業継続を支援。



【会社役員・男性・70代以上、申請予定】

事業再建のための各種補助金や支援金を使っ
ての計画を立てたが、自己負担部分もかなり大
きく、その捻出方法を考えていたところ、町独
自の支援金を出してもらえるようになり、たい
へん助かりました。

事業者の数が減れば雇用も減り、過疎にもつ
ながると思われるので今後もできる範囲で事業
者支援の施策を考えて欲しいと思います。



【宿泊業・男性・50代、申請予定】

助かります。
使わせてもらいます。



【建設業役員・男性・60代、申請予定】

条件が厳しく、なりわい再建支援補助
金も使えず、志賀町事業者等災害復興支
援金の額が小さい。

町では企業誘致者や新規事業者に対し
て大きな額の事業補助金を出している
が、この災害時の時に、地元の個人事業
主や小さな会社に投資してほしい。企業
をなくしては、今後の雇用の創出、税金
の納入がなくなるのではないかと。



【建設業・女性・50代、申請済み】

申請が簡単だった。

しかし今だに入金がない。支援金なの
で迅速にしてほしい。



【菓子製造販売業・男性・60代、申請予定】

助かる。
 再建にあたり、自己資金や国の補助金を使い足りない分を金融機関からの融資に頼ろうと考えている。自分の代で完済したいと思っているが、何があるか分からないので、少しでも息子には負の遺産を少なくしておきたい。その意味で大いに助かる。



【自営業・男性・50代、申請予定】

支援補助金は能登半島地震における国の施策として、いろいろな制約がありますが、ありがたいと感じています。

その支援補助金に付帯として応援して頂ける志賀町のお気持ちも感謝しています。

現在なりわい再建支援補助金の付帯とした独自補助は他市町と比べても追加支援対応されていない市町もある中、非常に早く対応されており補助金額も中小企業にとって助かります。

志賀町富来地区の人口減少は地震で加速度的に進むと懸念しているので少しでも歯止めをかけるため、さらなる企業への支援も願っております。



【団体職員・男性・30代、申請未定】

県なりわい再建支援補助金を申請するかどうかもまだ決まっていないため、町独自の支援金の申請に至っていない。

そのため、志賀町事業者等災害復興支援金の受付期間を延長していただきたい。

県なりわい再建支援補助金を申請予定も見積書が出てこないため、申請できていないのが現状。県なりわい再建支援補助金の申請期間は3年間程続く予定である。



【建設業・男性・50代、申請済み】

予算の使い方には、全体のバランス感覚が必要だと思います。



議員活動報告

※定例会以外の議員の活動です。(令和6年4月～6月)

○4月22日 議会全員協議会

震災被災地現地視察(町立富来病院・仮設住宅など)



○6月14日 議会全員協議会

町内企業現地視察



株式会社DEP
 (企業向け外国人研修施設)

大洋農産加工株式会社
 (農産物加工工場)

○5月21・22日 議長・副議長

全国町村議会議長・副議長研修(東京都)

今回は、志賀町に移住された

志賀の郷 高平 真さん 弘子さん

お聞きしました 志賀町のこころ しかまち LIFE

にお話しをお聞きしました。

**出身はどちらですか。
志賀町に住んで何年になりますか。**

出身は北海道です。
夫の仕事の関係で釧路市に住んでいました。
私は3年前に移住し、夫は仕事が定年延長となり、1年遅れでこちらに移住してきました。

志賀町に移住された理由はなんですか。

仕事を退職した後、釧路市以外に住んでみたいと思ひ、ずっと移住先を探していました。
海が近いことや、現在住んでいる家も気に入り、移住を決めました。
静かな環境と温泉があり、とても気に入っています。
子どもや孫たちも夏休みや冬休みを利用して遊びにきますが、とても喜んでいます。

町内でお気に入りの場所はどこですか。

増穂浦海岸の世界一長いベンチへよく夕日を見に行きました。
今度はさくら貝を拾いに行きたいと思っています。



今後、やってみたいことはありますか。

(真さん)
今は、仕事をしていたころにはできなかった、料理や野菜づくりを楽しんでいます。
地域のお祭りも観てみたいし、旅行が趣味なのでふたりでいろいろな所を回ってみたいと思っています。
(弘子さん)
去年、ころ柿づくりを体験しました。
とてもおいしくできたので、今年もぜひ作ってみたいと思っています。



スローライフを楽しむ高平さんご夫妻



編集後記

延期されていた「二十歳のつどい」が開催されました。参加したみなさんの、心からの明るい笑顔が非常に印象的で、こちらも笑顔になりました。

意見をくださった実行委員会のみなさんの「二十歳の思い」をしっかり受け止めるとともに、一日も早い志賀町の復興を願います。

(富澤 軒康)



議会へのご質問、「ぎかいのひろば」についてのご感想・ご意見などありましたら、ホームページの入力フォームをご利用下さい。



お知らせ

9月定例会本会議の日程(予定)です。傍聴に来ませんか。

※本会議はケーブルテレビでも視聴できます。(生放送・録画放送)

| | | |
|-------------|--------------|------------------------------|
| 8/27 (火) | 本会議 10:00 | 議案の上程 (町長が町の近況や議案説明をします。) |
| 9/3 (火) | 本会議 10:00 | 一般質問 (議員が町政について質問をします。) |
| 9/13 (金) | 本会議 14:00 | 議案の採決 (議案の可否について決定をします。) |

| | | | | |
|-----------|-------|-------|-------|-------|
| 委員 | 副委員長 | 委員長 | 議長 | 発行責任者 |
| 櫻井 俊一 | 富澤 軒康 | 寺井 正紀 | 表谷 茂浩 | 福田 晃悦 |
| 議会広報特別委員会 | | | | |